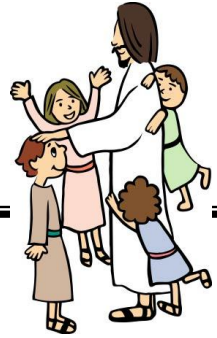


風のように

甘木教会

主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一



こども だ あ て お
そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて
しゆくふく
祝福された。マタイ10:16

【説教要旨】

今月は、教会も、松崎保育園でも、花の日の礼拝を守ります。花の日は、「1856年、アメリカの教会で6月の第2日曜日に、特別の礼拝を守ったのが始まり（子どもの日ともいう）。この時期は花の多い時期でもあり、神様の恵みを感謝し、同時に、病気の人たちや恵まれない人たち、公共施設で働く人たちなどにお花をとどけてお見舞いをしました。『自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい』（ワリピ 2:4）とあるように、いろいろな人たちと共に生きていることを覚え、また、共に生きて行くことの大切さを学んでいます。神様の恵みを共に分かち合う日です。」花の日のもう一つの意味である「こどもの日」として、こども祝福式を教会、保育園、幼稚園の子供たちのためにします。今日の日曜日の礼拝は、春のこども祝福式です。

イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。

「イエスに触れていただく」とは、奇蹟など行う偉大な人から祝福をいただいて、子どもたちがすくすく育つように親たちは祈りをもって子どもたちを連れて行くのです。ですから親たちは偉大なイエスさまのところに連れて来たのです。

「弟子たちはこの人々を叱った。」とあります。これはごく自然なことだったのです。子どもたちは祝福と律法教育の対象であっても、祈り、神の教えを聞く集会から除外されていたのです。

ここで「叱った。」という言葉は「いさめた。」とも訳せません。何を人々にいさめたかという祈り、神の教えを聞く集会のとき、大人の大切な時間にがやがや騒ぐ子どもは邪魔なのです。これを弟子たちは、ごく当たり前のように思い、動いたのです。だから、イエスさまと接触することを諫めたのです。今、祈り、教えを聞く時だから子どもたちは排除され、じっとしていないがやがやさわぐ子どもたちここにいるのは、集会の邪魔なのです。困る行為です。それは、私たちがそうではないでしょうか。礼拝堂に母子室というものがありますが、出来るだけ一緒に子どもと礼拝したい私はずっと嫌いでした。私の建てた刈谷教会、大森教会は母子室を作りませんでした。

今、大切な話を聞く時だから、子どもに遠慮、排除するという私たちが当たり前と置いていたことにイエスさまは、憤られたのです。むしろ、「子供たちをわたしのところに來させなさい。妨げてはならない。」と言われて、**子どもたちをわたしのところに来るままにさせておきなさい**といわれるのです。イエスさまは、大人も子どもも神の前において、同様に肯定され、受容され、神に應えていくことの出来る祝福の権利を等しく持つ者と言われるのです。誰もこの祝福を妨げてはいけないと言われます。

ルーテル教会の牧師の子であったフレーベルは、「幼稚園 (Kindergarten)」という言葉を作り、幼児教育に取り組みました。私たちは教育する者、される者というようなのではなく、肯定され、受容され、神に應えていくことのできる祝福を神から与えられて、育まれて生きて行くものだということです。

子どもたちをわたしのところに来るままにさせておきなさいと主の言葉を幼稚園ということによって表現したのではないのでしょうか。

子どもは単に大人になる前の準備の時期だと言うのではなく、「共にキリストに救われつつ教えられてゆく」存在としてのお姿を示されました。

そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

「神さまに愛されて、守られていることを知る。」ということが、ルーテル教会系の保育園、幼稚園は、日々、子ども一人一人と向き合い、こどもの心に寄り添っています。子ども一人一人がどう生活し、どう育とうとしているかをよく見て、神さまからいただく恵みを妨げられることなくいただく工夫をすること、これがルーテル教会の幼児教育・保育だと思います。

「子どもたちは、今を一生懸命生きています。育つために必要なことを、遊びやいたずらや友だちとの関わりのなかで、たっぷりと味わい、獲得していきます。それが大きくなっていくということなのです。」と私は教育・保育を表現しています。

石居正己先生は「本当に人を生かし、育てるのは神なのです。人間は（子どもも教師も）、その神の前に謙遜でなければなりません。その意味でルター自身が、いつでも神によって教えられることを望んでいました。神のみことばを受けて生きるように人を育てることが、最も大切なことと考えられたのです。」と語られています。

イエスさまが語る神のみ言葉から人間は（子どもも親も教師も）妨げてはいけません。

ルーテル教会の幼稚園は一人一人が祝福を受けて生きる人として子どもたちに寄り添っていきます。

こども讃美歌10番「ことりたちは小さくてもお守りなされる神さま」という讃美歌が好きです。どんなに小さくても神さは祝福されているということが伝わってきます。

しかし、3番「悪いことは 小さくても お嫌いなされる 神さま」はどうも可笑しいと私は思っていました。原詩を調べると同じように平良愛香牧師も感じていたようで、次のように平良牧師は訳しています。

2. こどもたちが 迷わぬよう神さまはいつも見つめてます。
3. 小鳥の歌、子どもの歌、神さまはいつも聞いています。

神さまは悪い、良いはありません。子どもたちをひたすらに祝福されるのです。

牧師室の小窓からのぞいてみると

2025年度出生率

2024年度比べて、15,000人減となり67万1,236人となりました。10年連続の減少が続いています。



それは人口減少によって、すべての分野が縮小し、統合化、淘汰が進んでいるということです。日本社会が根本的に変化して、どう向かうかと言うことが問われています。現状のままにはいかないでしょう。

教会もまた、どう縮小し、統合化、淘汰が進む現実と向かい合い、これが人々に起こす現実的課題とは何か、この課題と教会はどう取り組んでいくかです。残念なことです。縮小し、統合化、淘汰が進む現実の中で教会にも起こり、いかに教会を守っていくかと言う自己保存的になっているかということです。教会は自己保存的になってはいけません。他者のために生きるのが教会です。ここに宣教の意味があります。

新米園長・瞑想？迷走記

—すごい社会資本がある—



久留米に来て、驚くべきことは、身近に社会資本が充実していることである。たぶん、ずっと久留米に住んでいる人は気づいていても実感がないと思う。

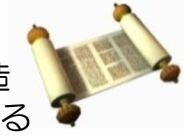
そこで、我が幼稚園は、今年から園の外に出ていくことに心掛けている。紫陽花の季節。先日は、石橋美術館の庭に紫陽花を見にいった。園バスがあるのでついバスを使うが、公共交通機関を使うことにした。さて、バスの中で元気な子どもたちはと心配があったが、余計な気苦労だった。すばらしい手入れをした花を見ると、子どもたちの心を豊かにしていくのではないかと私は思う。

東京の幼稚園では上野の科学博物館に行っていた。上野は3の素晴らしい美術館あるので、絵を見せたかったが、先生方の同意を得られず実現しなかった。本物の絵を見る、すごいと思いませんか。いつか石橋美術館の絵を子どもたちに見せられる日がきますように。大いに体で、その心で感じて成長の糧としてほしい。

日毎の糧

聖書： 知れ、主こそ神であると。主はわたしたちを造られた。わたしたちは主のもの、その民／主に養われる羊の群れ。

詩篇100:3



ルターの言葉から

それゆえに、あなたはキリストをあなたから引き離したり、彼がお与えになる慰めを逆にして自分を恐怖や絶望に追い込むような不敬なことをしないで、全信頼をもって彼のももとに走り寄りなさい。『慰めと励まし

の言葉 マルティン・ルターによる一日一生』湯川郁子訳 徳善義和監修 教文館

主は恵み深く、慈しみ

100篇は短い詩篇である。「簡潔な短い感謝の讃美の詩である。「だが、その中に七つの命令文が並ぶ。それゆえ、本詩は『命令文による讃歌』と呼ばれていた。」①

神は私たちを救うために多くの命令を与えてくださる。それは専制的一方的命令ではない。だから詩篇は、次の言葉をもって結ぶ。

主は恵み深く、慈しみはとこしえに／主の眞実は代々に及び。

詩篇100:5

月本氏は次のように解釈されている。

「讃美を促す神は、いかなる神か。「主は恵み深く、慈しみ」の神である。ただ単に私たちに命令する神ではないことを告げる。この詩編の意図はここにある。

本詩は最後に神ヤウエの特質を讃美の常套句に託して閉じられる。『主は恵み深く、慈しみは とこしえに／主の眞実は代々に及び。』」②

私たちは、神の深い恵み、慈しみの内にあって、主のものとなり、養われている。安心して今日も主と共に歩みましょう。

①②「詩編の思想と信仰Ⅱ」 月本照男 新教出版

祈り：主の恵みと慈しみの内を生きされていることを感謝して、強く、雄々しく一步を踏み出すことが出来ますように。アーメン。

甘木通信

人間にとって最も幸福なのは、喜び楽しんで
一生を送ることだ、と。 コヘレト3：12



木曜日の雨空のもと、80歳代のEさん、60歳代のKさん、ご婦人二人が、甘木聖和幼稚園の台所で、2kgの梅ジャムを作っていた。「これを売って、教会の資金」にするという。淡々とかような仕事をされる姿は、側で見る私の気持ちは晴れてくる。蒸し暑い空気を爽やかな空気にしていく。

これからお二人はいつかこういうことは出来なくなるだろうが、こんなことを考えてか、考えずに、今を生きるというか、遊んでいる。顔は幼子のように可愛い。良いですね。

九州人の田舎者の私だけかもしれないが、人生のサイコロの上りは東京と考えていた。まさか九州の甘木教会の囑託牧師になって、帰ってくるなど思いもしなかった。

「時間がない、忙しい、歳を取っている」と言っただけでは、活動を控えていく教会にどうすればこの壁をこえていけるのかと悩んでいた。甘木教会では、それぞれが、それぞれを認め合いごく自然に活動している中に加わったことは、退職金を二度いただいているようだ。

教会に行くのが楽しくなっている。さて、次は何をみんなはするのだろうか。楽しみだ。

遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。 梁塵秘抄

(甘木日記)土) 松崎保育園の運動会、晴れてよかった。少し子どもたちと友だちになってきたので楽しい日) 老いて、教会を任せられることは幸せだと思ふ。どう一緒に福音を伝えるか共に歩みたい。日善幼稚園の報告のために久留米教会・役員会へ。月) ルーテル羽村幼稚園の理事会・評議員会の準備があり、木曜日の松崎保育園の聖研、礼拝を今日にいただいた。雨で甘木へは行かず久留米で仕事。火) 幼稚園の夏の花壇に変えつつある。水) 昨日から何か体がきつく、午後には一休みをしている。木) 早朝から東京へ。ルーテル羽村幼稚園の内部、外部監査。順調な25年度。しかし、厳しい26年度が続く。すべては子どもらが元気であるために。金) 夕刻に久留米に帰る予定。今は空港からメールを発信。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）快晴の松崎保育園の運動会。暑さの中で働かれた職員に感謝。子どもらも頑張りました。帰りに松崎の席亭の前を通ると綺麗なあじさいが咲いている。明日は寄席がある。水曜日は石橋文化センターに三三さん、喬太郎さん、桃花さんの凄い落語家が集まる。行けない。涙、涙。日）礼拝



の出席者が少ない。ふと原点に戻る。数でない。ここによって集められたということが恵みで大切だ。原点。午後から久留米教会役員会。教会にとって日善幼稚園が恵みの器だということと一緒に共有していただく。教会学校には、在園園児、卒園生、保護者、職員が来られ多かったと聞き、嬉しくなった。役員会で報告が終わり庭に出てみると

と運転手さんらが納骨堂の掃除をしてくれている。一緒にちょっと水遊び？高圧洗浄機で掃除。月）私の都合で、松崎保育の礼拝を今日に変えていただいた。園児らと一緒にという気持ちが生まれてきているように感じた。甘木教会の外仕事をする予定だったが雨で、急遽、家に帰って休み、6月、7月の礼拝の準備。いつもながら讚美歌選曲、説教題を考えるのに苦労をする。羽村幼稚園の園長補佐が怪我をしたと連絡あり。心配である。回復を祈る。火）花壇にはまだ三色堇が可愛く咲いているので、購入した夏の花、インパチェンス、トレニアをその隙間、隙間に植え、残りのトレニアはポット植えて教会の玄関に。長男のカードが不正利用されたと聞き、心配になる。何か出来る訳でもないが、この子は、ブラジル時代の大変な時に、大人しく手がかからず、また我慢、苦勞させた。会う度、いつも申し訳なく、そして心配し、幼子の時のままのイメージをもって接する。水）朝は涼しかったが、昼は人を刺すような日差しになった。今日も老いを感じるように昼は床に体を休める。夕になり残りのトレニアを花壇に植える。喬太郎、三三、桃花さんの落語を聞けず。しくしく。木）いつ

ものように5時15分のバスで空港にきた。早すぎた判断能力が劣化。羽村幼稚園の先生に日頃の働きに感謝し、御座候の大判焼きを買って行く。外部監査報告、内部監査を受ける。これからも子どもが楽しく、明るく、元気に憩える園を作っていこうと決意。金）東京、残務整理。今は空港からメール発信。明日は日善幼稚園の運動会。準備の職員に感謝。



我が家のペランダの大葉